

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第395回

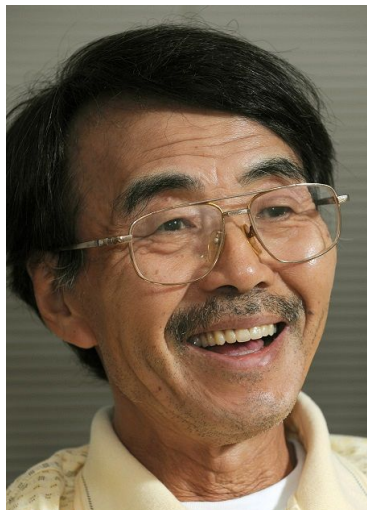
水島新司

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和6年9月11日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

ストーリーいららないんですよ。
キャラクターを描けば、
読者をつかむことができる。

水島 新司は、日本の漫画家。野球漫画の第一人者。代表作に『野球狂の詩』『ドカベン』『あぶさん』など。新潟県新潟市出身。趣味は野球、将棋。血液型はB型。元タレント・俳優の水島新太郎は長男。

Column

今回の言葉を知った時の第一印象は『え？そんな感じ？』でした。しかし、そんな感じでベストセラーが誕生するはずはないですよ。では、一体どういう意味で今回の言葉を発したのかと考えてみました。

物語には主役が存在します。『キャラクター』という言葉がありますが、脇役も含め、すべてのキャラクターの中でも一際存在感を放つのが主役です。水島さんの作品のほとんどが野球（団体競技）にまつわるもので、まずは主役について描いていく中で仲間（脇役）のエピソードも生まれていくのだと思います。ですからキャラクターを描けばみんなで協力するシーンなどが描写され、自然に感動的なストーリーが出来上がっていき、読者の心をつかむことができるという意味なのだとは私は解釈しました。

ここまで述べてきた中で『漫画（フィクション）の世界だけの話ではない』と思いました。みなさんはそれぞれの人生の“主役”です。今までもいろいろなことがあったと思います。ドラマで言えばシーズンいくつくらいでしょうか。苦労しながら乗り越えたこともあったと思います。これからもいろいろなことがみなさんを待っていて、笑ったり泣いたりしながらひとつずつクリアしていくことだと思います。そして、そのすべてのシーンにみなさんの周りにはいる家族、先生、仲間というキャラクターたちが登場していて、互いに協力しながら素晴らしいストーリーが出来上がっていきます。当然ながら仲間が主役のストーリー上ではみなさんは脇役となります。その中でも素晴らしい主役となる大きな成長を遂げるチャンスがあります。そういう意味では、みなさんは一人何役もこなしながら同時に数多くのストーリーに登場して活躍するマルチ過ぎる名俳優なのです。

漫画やドラマなどではみなさんのような様々な個性を持ったキャラクターが設定され、主役や脇役に配置されますが、みなさんは生まれ持った個性を活かしながら様々な経験を何度も積み重ね、そのシーンによって主役にも脇役にもなるのです。そう考えるとリアルな人生はどんな漫画や映画、ドラマにも負けないくらいエキサイティングで感動的なものです。みなさんの心をつかむ素晴らしい人生にするのは自分自身です！